



# 製品安全協会の歩み

安全とともに  
50th

1973年10月:消費生活用製品安全法に基づき製品安全協会が  
設立

1973年12月:乳母車がSG基準第1号として事務受付を開始

1974年3月:乗車用ヘルメット、野球用ヘルメット、炭酸飲料を充てんするためのガラス瓶(通商産業省関係特定製品)の検査等の業務開始

1983年5月:SGマーク制度の外国製造事業者登録を海外開放

1986年10月:消安法改正により民間法人化

1995年6月:消費生活用製品PLセンターの開設

2000年12月:「財団法人製品安全協会」に組織変更

2010年4月:中国連絡所(上海)を開設

2012年4月:「一般財団法人製品安全協会」に組織変更



# SGマーク制度とは



SGマーク制度は、安全基準・製品認証・事故賠償が一体となった世界的にも類を見ない制度です

## 01 安全基準



SG Standards

消費生活用製品の安全性  
品質・使用上の注意事項等  
に関する基準(SG基準)の  
策定

## 02 製品 認証



Certification

SG基準に基づく認証及び  
認証済み製品へのSGマー  
クの表示許可

## 03 事故 賠償



Compensation of  
Human Loss

SGマーク付き製品の欠陥  
による事故における人身  
損害の賠償



# SG基準とは



SG基準は実用性と安全の証です



01

使いやすさも  
安全のひとつ

SG基準は、実用性を重視した  
うえで安全を作りこんだ基準と  
なっています



02

使用方法も  
重要

誤使用は、事故のもと！  
使い方（表示・取扱説明書）も  
セットで定めているのが、SG  
基準のユニークな特長です



03

作り手と使い  
手が一緒に  
基準作成

製造事業者、学識経験者、消  
費者代表、検査機関、行政機  
関の専門家がSG基準作り  
に加わることで、それぞれの視  
点から客観性と実効性の高い  
基準を作成しています



# SGマーク対象品目

安全ととも  
50th

現在事務受付しているのは110品目(一部重複あり)

乳幼児用品  
(19品目)



福祉用具  
(7品目)



家具・家庭用品  
(21品目)



台所用品  
(9品目)



スポーツ・  
レジャー用品  
(36品目)



家庭用フィット  
ネス用品  
(7品目)



自転車・  
自動車用品  
(8品目)



その他  
(8品目)



詳細はQRコードで

乳幼児用品

自転車・自動車用品

福祉用具



暮らしの中の SGマーク

(110品目)

家具・家庭・台所用品

その他

スポーツ・レジャー・家庭用フィットネス用品



# SGマークの役わり



## ～ 消費者にとって ～

- ・ 安全な製品の見分けができる
- ・ しっかりした取扱説明書がついている
- ・ 製造元・供給者が分かりコンタクトできる
- ・ 万一、製品の欠陥で事故が発生したとき賠償される
- ・ 事故原因調査から賠償まで製品安全協会が対応する



## ～ 事業者にとって ～

- ・ 提供する製品の安全という価値を確かなものにできる
- ・ 自らが製品の安全にコミットしていることを示せる
- ・ 製造・供給者と確実に連絡がとれる
- ・ 万一、製品の欠陥で事故が発生した際に賠償できる
- ・ 原因究明から賠償まで、製品安全協会に任せられる



# SGマーク付き製品を販売したい



急いで販売したい

長期的、継続的に販売する予定である

## 1.ロット認証を受ける

製品安全協会からSG基準を  
購入してください。

[SGマーク制度の認証について](#) | [製品安全協会CPSA \(sg-mark.org\)](#)

オンラインで検査機関に申請し、  
認証に係る手数料をお支払いください。

[各種申請・届出手続きについて](#) | [製品安全協会CPSA \(sg-mark.org\)](#)

ロットのサンプルを送付して、  
基準適合性検査を受けてください。  
(品目によっては、別途衛生試験等の  
証明書が必要です。)

試験検査機関の指示にもとづき、  
ロットの同等性検査を受けてください。

試験に合格した場合は、シールを  
受け取ってください。

## 2.SG登録工場に 注文する

該当する製品に有効な型式区分を  
保有している登録工場に依頼して  
ください。登録工場が「型式区分内  
追加届」を協会に届けることで  
対応できます。

SGマーク代金を、直接協会に  
支払うか、登録工場を通じて  
支払うか決定後、シール注文を  
行ってください。

## 3.登録工場になる

SG登録工場になる手続きを  
行ってください。

必要書類は協会HP内をご確認  
ください。

[各種申請・届出手続きについて](#) | [製品安全協会CPSA \(sg-mark.org\)](#)

工場審査を行います。  
費用はJPY100,000+諸経費(税別)  
となります。オンライン手数料  
or移動実費等詳細は「認証の  
詳細」をご確認ください。

工場審査の完了後、「型式確認  
申請試験」を行います。サンプル  
を送付して、試験検査を受け  
てください。JPY5,000+品目別  
試験費(税別)が必要です。  
(品目によっては、別途衛生  
試験等の証明書が必要です。)

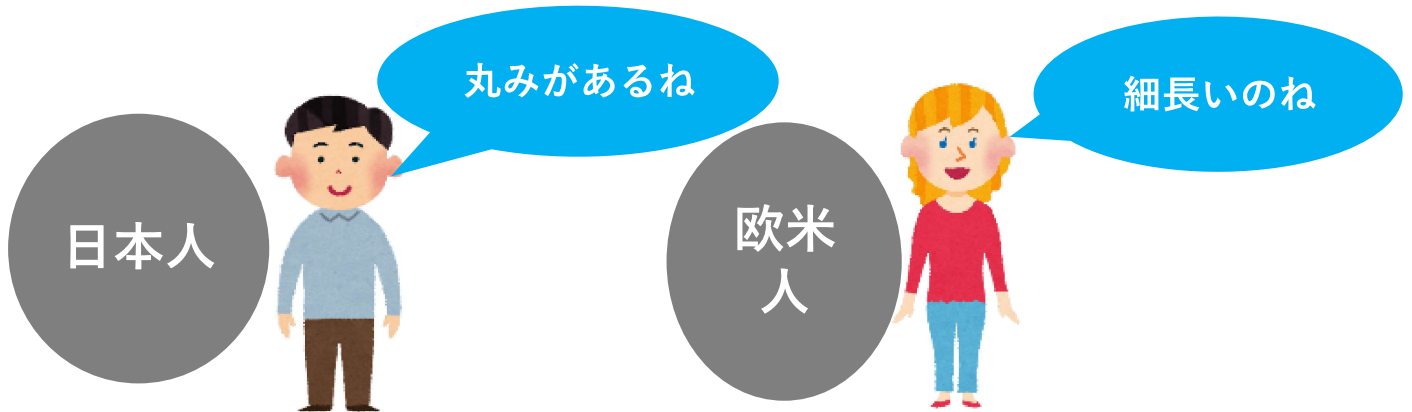
SGマーク代金を、直接協会に  
支払うか、登録工場を通じて  
支払うか決定後、シール注文  
を行ってください。

全ての手続きにおいて、SG基準にある「本体表示」「取扱説明書」に適合した日本語表示物があることを確認してください。項目が全て記載されていない場合は、SG認証は受けられません。

# SG基準はここが違う！

安全と  
ともに  
50th

## 1. 日本人の体形にフィット



日本人の頭によりフィットする = 安全性が高い！



## 2. 製品の進化・社会のニーズに即応

オシャレなデザインにも対応

子育てニーズに対応して  
1～2歳児向けも



製品の進化・社会のニーズの変化、事故動向などを踏まえてタイムリーに見直します





### 3. しっかりとした安全要求

#### 3.1 基本性能（衝撃吸収性他）

**転倒時に脳を障害から守る！**

頭骸骨の強度、脳への衝撃と障害などの研究成果に基づいてます

**路面と接触しても首を傷めない！**

接触時に首を傷めないよう外表面の突起物についても制限

#### 3.2 トラブルの未然防止

**ヘルメットが簡単にぬげない！**

あごひも強度と伸びの範囲、引っ張った際の外れにくさも規程

#### 3.3 使いやすさも安全の要求

**着用時に視界をしっかり確保**

十分な視野角を求めています



衝撃吸収試験装置

### 4. 材料・素材にも配慮

材料、素材による皮膚障害等の防止対策も含まれます

### 5. 使い方にも配慮

製品、包装等に分かりやすく表示され、しっかりとした取扱説明書がついています

**SG基準は様々な視点から  
事故防止を目指しています**

関連情報：自転車用ヘルメットに関する安全基準を満たす製品について

コチラ⇒





以下の省庁・団体等から  
ご後援をいただいています



経済産業省

消費者庁

独立行政法人国民生活センター

独立行政法人製品評価技術基盤機構

主婦連合会

全国女性団体連絡協議会

公益社団法人日本消費生活アドバイザー  
・コンサルタント・相談員協会

一般財団法人日本規格協会



以下の団体・事業者・検査機関から  
ご協賛をいただいています



※上から団体、事業者、検査機関順(50音順)

圧力なべ協議会  
日本卓球公認工業会  
一般社団法人日本ヘルメット工業会

株式会社オージーケーカブト  
株式会社尾上製作所  
コンビ株式会社  
株式会社ダッドウェイ  
株式会社谷沢製作所  
Newell Brands Japan G.K.(Aprica)  
ベビービョルン株式会社  
株式会社ムサシ  
株式会社ユニバー  
ラッキー工業株式会社  
一般財団法人化学研究評価機構  
一般財団法人化学物質評価研究機構  
一般財団法人自転車産業振興協会  
一般財団法人JASPEC  
一般財団法人電気安全環境研究所  
一般財団法人日用金属製品検査センター  
一般財団法人日本車両検査協会  
一般財団法人日本繊維製品品質技術センター  
一般財団法人日本文化用品安全試験所  
ビューローベリタスジャパン株式会社  
一般財団法人ボーケン品質評価機構



# 創立50周年記念表彰者



(五十音順・敬称略)

団体	圧力なべ協議会
	全国浴そうふた協議会
	全日本卓球台工業会
	抱っこひも安全協議会
	公益財団法人日本高等学校野球連盟
	一般社団法人日本スポーツ用品工業協会
	ベビーカー安全協議会
事業者	アルインコ株式会社
	株式会社カワムラサイクル
	株式会社キザキ
	株式会社シナノ
	株式会社ジャパネットホールディングス
	株式会社竹虎
	中津テント株式会社
	長谷川工業株式会社
	株式会社ピカ コーポレイション
	株式会社バルーナ
株式会社YUWAホールディングス	
個人	臼井健介(芝浦工業大学名誉教授)
	長友隆男(芝浦工業大学名誉教授)